



平成27年 消防出初式 (1月4日)

主な内容

- 新しい年のはじめに…………… 26
- 新潟県立加茂病院改築事業基本設計に対する要望書…………… 7 16
- 新潟県立加茂病院建設に伴う病児・病後児保育施設設置の要望書…………… 17 18
- 加茂病院改築事業基本設計の概要…………… 19 28
- 元旦マラソン、市民囲碁・将棋大会…………… 29
- 加茂の風土記…………… 30

加茂病院は加茂市の宝 加茂病院をもり立てましょう  
 「美人の湯」も加茂市の宝 美人の湯をよろしく願いたします



## 新しい年のはじめに



加茂市長  
小池清彦

新年あけましておめでとうございます。

謹んで市民の皆様には新年のお慶びを申し上げます。皆様方におかれましては、今年一年、何とぞますます御健勝で御多幸の日々をお過ごしくださいませよう、心からお祈り申し上げます。

本年も市民中心の真の民主的市政をさらに推進し、これまでに到達した市政の高い水準をさらに高め、充実させてまいりたいと存じますので、何とぞよろしく御指導くださいますようお願い申し上げます。

「市民と市長の『よもやま話』の日」には、本年も市民の皆様のお越しを心からお待ち申し上げます。



一、 今年の加茂市の大きな課題は、何といたっても、

県立加茂病院の建て替えにより、新しい加茂病院の建設が始まるということでございます。

県央基幹病院よりも先に新しい加茂病院を建てることとされた泉田知事さんの御英断に對しまして、心から感謝申し上げます。

まずはじめに申し上げますけれども、一月十四日に、佐藤田上町長さんと私加茂市長が連名で泉田知事さんと柄沢県議会議長さんに対し、「病児保育園」を新しい加茂病院の中につくっていただきたいとの要望書を提出いたしましたところ、一月十九日に泉田知事さんから「そのようにしたい」旨の承諾の御返事があったことでございます。

泉田知事さんの機敏な御承諾に對し、心から感謝申し上げます。これから県当局と一緒につめていくこととなります。

なお、「病児保育園」の建設と運営の経費は、加茂市と田上町が負担することになります。

佐藤田上町長さんと私が提出した要望書は、

この広報かも一月号に載せてありますので、御覧ください。

さて、新しい加茂病院は、一度建設いたしますと、今度は、耐震構造の建物ですので、おそらく今後六十年ないし百年は建て替えることがありませんので、最初に立派な病院を建てる必要があります。そして、新しい病院の内容は、これから数か月の間に決まっております。

一月十四日には、新しい病院の基本設計が発表されました。その内容は、相当なものではありませんが、きわめて不十分なところがかなり多くあり、将来に大きな禍根を残す恐れがあります。

そこで私は、早速一月十六日に泉田知事さんに対し、要望書を提出いたしました。

私が提出した要望書と県の基本設計のすべては、この広報かも一月号に載せてありますのでご覧ください。

私が提出した要望書の骨子は、次のとおりでございます。この要望が実現しないと、せつ

かく造る新しい加茂病院が極めて不十分なものになることは、皆様が御覧になれば御同意いただけるものと存じます。

(一) 県の基本設計では、新しい加茂病院は、四階建て、一部五階建てで、六階に多目的ラウンジのついたもので、延床面積一万三千 $\text{m}^2$ であるが、これでは極めて不十分であり、完全五階建てで延床面積一万五千 $\text{m}^2$ としていただきたい。

最近新しく建て替えられた福井県鯖江市にある公立丹南病院は、県立加茂病院と同規模の百七十九床の病院であるが、延床面積は一万五千七十 $\text{m}^2$ であり、県の基本設計の一万三千 $\text{m}^2$ は狭すぎる。

(二) 加茂病院は現在百八十床であるが、県の基本設計では、療養病床を三十床から五十床に増やし、新たに緩和ケア病床三十床を設けるため、五十床が必要となり、その分、一般病床を百五十床から百床に五十床減らすことになっている。しかし、新しい加茂病院は立派

で重要な病院であるうえに、救命救急センター併設の基幹病院の第一の補完病院になる。

ところが、救命救急センターは小規模のもので、病床数が十九床しかないので、ここへ搬送されて来る救急患者は短期間で加茂病院へ搬送されて来る。立派になった加茂病院には、直接搬送されて来る救急患者も多くなる。そうなる二百床ではとても足りない。従って、一般病床を五十床足して元の百五十床に戻し、その結果加茂病院の全体の病床数を百八十床から五十床以上増やし、二百三十床以上にしていただきたい。一方、厚生労働省の基準によれば、県央地域には、七十八床の余裕があるので、このうち五十床以上を加茂病院で増やすべきである。

(三) 県の基本設計では、産科の個室は四室以下である。しかし、民間では「産科は個室」が常識である。これでは、加茂病院に妊婦は来ない。民間の産科は小さなところでも十九床は持っている。加茂病院の産科も病室はすべて個

室とし、二十室以上としなければならない。

- (四) 県の基本設計の現段階では、県当局は、十五の診療科のうち、皮膚科、神経内科、放射線科、リハビリテーション科に常勤医師を置かないこととしているが、新しい加茂病院は立派で重要な病院であり、基幹病院の第一の補完病院となるので、すべての診療科に常勤医師を置いていただきたい。

- (五) 麻酔科を設置していただきたい。

- (六) 加茂市の三つの特別養護老人ホームに加茂病院から往診していただきたい。

- (七) 加茂病院に病児保育園（病児・病後児保育施設）を設置していただきたい。この件につきましては、一月十四日に田上町の佐藤町長さんと私とで、泉田知事さんに要望書を提出いたしました。この要望書もこの広報かもし月号に載せてあります。

- (八) がんの早期発見に絶大な能力を有するPE

T・CT（ペット・シーター）を新しい加茂病院にぜひとも設置していただきたい。

- (九) 新しい加茂病院においては、病室の暖房と冷房を夜止めないでいただきたい。

- (十) 透析については、加茂市で大勢の患者に行っておられる病院があるが、この病院とは調和を保ちつつ、加茂病院でもできる態勢にしていきたい。

- 二. 今年においても、第四平成園の構想の策定の準備を行ってまいりたいと思います。平成二十五年の十二月に第三平成園の後期工事が完成し、施設介護を必要とする人は、全員介護施設に入所できることになりましたが、今後施設介護を必要とする人が大幅増加いたしますので、それに備える必要があります。

- 三. (一) 平成十三年小泉内閣が出現して、小泉内閣と安倍第一次内閣とで地方へよこす地方交付税交付金を極めて大幅に削減して、加茂市に

対しても毎年実に十億三千万円の地方交付税交付金が来なくなつたのでございました。これは、加茂市の職員の半分にあたる百五十人の人件費に相当するメチャクチャなものでありました。即ち、地方暗黒時代の到来でございます。

(二) これに対して加茂市は「市政の高い水準は一切落とさない」との基本方針の下、福祉、商工業支援、農業支援、教育の水準は一切落とすことなく、市内の団体等に対する補助金も一切削減せず、まことに不本意ながら人件費削減と諸経費の節約を以て対応し、八十人の人員削減を行って、職員数を三百三十人から二百五十人に減らしたのでございました。

(三) このへんで一段落したかと思っておりますところ、安倍内閣になって、二十六年度に再び県と市町村に対し、地方交付税交付金を大幅に削ってまいりました。加茂市でも、さらに毎年ベースで八千三百万円の地方交付税

交付金が削減されて、地方暗黒時代が再来いたしました。もはや、加茂市の予算で切るところはどこもありませんので、まことに不本意ながら、職員が十人辞めても、十五人辞めても一人しか採用しないという厳しい政策を行わなければならなくなりました。

(四) 安倍内閣は地方創生、地方で雇用を増やすといっておりますが、やることは、どう見てもその反対でありまして、地方暗黒時代の再来であります。

(五) 地方にとって、こういう事態となりましたが、私といたしましては、これまでどおり、加茂市の市政の高い水準は一切落とさないとの基本方針の下で対応し、市民の皆様お一人おひとりの幸せをしっかりと守ってまいりたいと存じます。

今年一年の皆様の御健勝と御多幸を重ねて心からお祈り申し上げます。

総 第 35 号  
平成27年 1月16日

新潟県知事 泉 田 裕 彦 様

加茂市長 小 池 清 彦

### 新潟県立加茂病院改築事業基本設計に対する要望書

このたび平成27年1月14日付で新潟県立加茂病院改築事業基本設計が発表されましたが、これに対し、下記のとおり御要望申し上げます。

#### 記

- 1 4階建て一部5階建てのこの基本設計を改めて、完全5階建てとしていただきたい。

なお、6階の多目的ラウンジは、この基本設計のとおりで結構です。

この結果、現在の加茂病院の延床面積が約10,000㎡となっているのを、この基本設計では、延床面積が約13,000㎡となっておりますが、当方の提案では、15,000㎡となります。

県立加茂病院と同規模（179床）の福井県鯖江市にある2市3町の組合立の公立丹南病院は、最近建て替えられた病院ですが（平成24年5月新病院で診療開始）、延床面積は、15,070㎡であります。

- 2 病床数は、この基本設計では180床となっているのを50床以上増やし、230床以上としていただきたい。
- 3 この基本設計では、産科の個室は4室以下であります。これでは全く不十分ですので、20室以上にしていただきたい。通常の民間病院と同様に、産科の入院室は、すべて個室にしていただきたい。
- 4 この基本設計の段階では、15の診療科のうち、皮膚科、神経内科、放射線科、リハビリテーション科には、常勤医師が置かれないことになっています。すべての診療科に常勤医師を置いていただきたい。
- 5 麻酔科を設置していただきたい。
- 6 加茂市の3つの特別養護老人ホームに、加茂病院から往診をしていただきたい。
- 7 加茂病院に病児保育園即ち病児・病後児保育施設を設置していただきたい。
- 8 がんの早期発見に絶大な能力を有するPET-CTをぜひとも設置していただきたい。
- 9 新しい加茂病院においては、病室の暖房と冷房を夜に停止することなく、一晩中作動させていただきたい。これに関連して、病院中の各室で「入」「切」ができるようにしていただきたい。
- 10 透析については、加茂市で大勢の患者に行っておられる病院があるので、この病院とは調和を保ちつつ、加茂病院でもできる態勢にしていただきたい。



## [ 説 明 ]

### 1 建物の形状及び延床面積について

- (1) 新しい加茂病院は、新しく建てられる「救命救急センター併設の基幹病院」の第一の補完病院であります。従って、後述のように極めて多くの患者が加茂病院に搬送されて来ます。また立派で重要な加茂病院には、多くの救急患者が直接搬送されて来ます。従って、150床から100床に減らされてしまった一般病床では、到底対応しきれず、50床以上の増床が必要になります。
- (2) また、産科の入院の個室は、4室以下では到底足りず、20室以上が必要であります。
- (3) そのためには、延床面積を大幅に増やす必要がありますので、6階の多目的ラウンジは別として、4階建てで一部5階建てのこの基本設計を変更し、完全な5階建てとされますようお願い申し上げます。
- (4) この結果、延床面積は、13,000 m<sup>2</sup>が15,000 m<sup>2</sup>となります。
- (5) 県立加茂病院と同規模（179床）の福井県鯖江市にある2市3町の組合立の公立丹南病院は、最近建て替えられた病院ですが（平成24年5月新病院で診療開始）、延床面積は、15,070 m<sup>2</sup>であり、加茂病院の基本設計は2,000 m<sup>2</sup>も少なくなっており、甚だ狭あいであります。
- (6) 新設の建物は、今後50年～60年は建て替えられずに存続することになります。一方医学の進歩は驚異的であり、新たなスペース

が次々に必要となってくることは、確実であります。このためにも、完全な5階建ての建物とし、延床面積を15,000㎡とすることは、絶対に必要であります。

## 2 病床数について

- (1) 新しい加茂病院は、新しく建てられる「救命救急センター併設の基幹病院」の第一の補完病院であります。
- (2) ところが、基幹病院の救命救急センターは、最も規模の小さい部類の19床のものであります。しかるに、このセンターには、極めて多くの救急患者が搬送されて来ますので、各救急患者を長く置いてはおけず、第一の補完病院である加茂病院には、極めて大勢の患者が基幹病院から搬送されて来ます。
- (3) 一方、この基本設計では、療養病床を30床から50床に20床増やし、新たに緩和ケア病床を30床設けることにしたため、50床の増床が必要となり、その分一般病床を150床から100床に減らしております。
- (4) しかし、新しい加茂病院は、立派で重要な病院となるのであり、入院患者は多くなります。
- (5) さらに基幹病院の第一の補完病院として、基幹病院から搬送されて来る極めて多数の患者に対し、また、さらに立派になった加茂病院に直接搬送されて来る多数の救急患者に対し、わずか100床で対応することは、不可能であります。
- (6) 他方、厚生労働省が定めた病床数の基準によれば、県央地域には、

78床の病床が余っており、これだけの余裕があります。このうち50床以上を加茂病院の一般病床を元へ戻すのに使うべきであります。

### 3 産科の個室について

- (1) 民間病院では、「産科は個室」が常識であります。民間病院では、ホテルのような個室を備えることを競っております。その結果、妊婦の方々は、豪華な個室によって、入院する病院を決めているのが、実情であります。その病院の医師と助産師の数や緊急な場合の対応能力で病院を決めているのではないのです。
- (2) 以前に加茂病院の産科へ来る妊婦が減ってしまったのは、まことに単純な理由によるのであります。加茂病院には入院の個室が極めて少なく、民間の病院には、豪華な個室が十分にあるというただそれだけの理由で、加茂病院の産科へ来る人が減ってしまったのであります。
- (3) この基本設計では、産科の個室は4室以下ですので、話になりません。再び以前の加茂病院同様、妊婦が来なくなります。
- (4) 産科には、20室以上の個室が必要です。通常の民間の産科病院では、19室の個室を持っているのです。通常の民間病院と同様に、産科はすべて個室にしなければ、以前と同様妊婦は加茂病院へは来ません。
- (5) 毎年の出産数は、加茂市で約180人、田上町で約70人です。さらに新津にも、五泉にも、阿賀町にも、産科はありません。従って、加茂病院は、毎年500人以上の妊婦を受け入れる必要があります。

ます。この方々をすべて個室で受け入れるのでなければ、妊婦の方々は加茂病院へは来ません。その結果、加茂、田上、新津、五泉、阿賀町の妊婦の方々は、塗炭の苦しみを受けることになるのであります。

#### 4 すべての診療科への常勤医師の配置について

(1) 加茂病院は、県立の立派で重要な病院である以上、15の診療科のすべてに常勤医師を置く必要があります。

(2) 特に加茂病院は、「救命救急センター併設の基幹病院」の第一の補完病院であります。他方、基幹病院の救命救急センターは、わずか19床の小規模のものです。従って、救命救急センターへ搬送された救急患者は、基幹病院へ長く置いておくことはできず、搬送入院後短期間のうちに加茂病院へ搬送されて来ます。また、立派で重要な加茂病院には、多数の救急患者が直接搬送されて来ます。救急患者の診療科は、すべての診療科にわたりますから、15の診療科のすべてに常勤医師を配置することがぜひとも必要であります。

(3) この基本設計の段階においても、県当局は、依然として、15の診療科のうち皮膚科、神経内科、放射線科、リハビリテーション科には、常勤医師を配置しないことになっているとのことですが、上記の理由から見れば、この4つの診療科にも常勤医師を必ず配置する必要があります。

#### 5 麻酔科の設置について

(1) 新しい加茂病院は、立派で重要な県立病院であります。また、「救命救急センター併設の基幹病院」の第一の補完病院であります。



- (2) 従って、高度の手術がなされることになり、また、救急搬送後短期間に患者が送られて来ますので、急遽高度の再手術をする必要が生ずることもあります。
- (3) また、こうした立派で重要な病院ですから、多くの救急患者が直接加茂病院に搬送されて来ますので、高度の手術がなされることとなります。
- (4) このため、麻酔科をぜひとも設置する必要があります。
- (5) 加茂病院と同規模の福井県の公立丹南病院には、麻酔科が置かれています。

## 6 加茂市の3つの特別養護老人ホームへの往診について

- (1) 新しい加茂病院の基本理念では、「地域の人々の健康維持・増進に貢献します。」とされ、また、基本方針では、「地域社会及び他の医療機関との密接な連携に努めます。」「適切な高齢者医療を行います。」とされています。
- (2) かつて、加茂市の特別養護老人ホームが1つだけあった当時は、加茂病院の医師が加茂市の特別養護老人ホームへ往診しておられました。それが、その後来なくなってしまわれたのであります。
- (3) 加茂市の3つの特別養護老人ホームでは、医師の確保に大層苦しんでおります。現在は、週1回午後に、三条市の大溪秀夫先生が平成園と第二平成園へ、加茂市の小池昭彦先生が第三平成園へ往診しておられます。両先生からは、早く後任を探してほしいと要望され

ておりますが、後任の先生が見つからない状況であります。

- (4) 新しい加茂病院の基本理念と基本方針にのっとり、ぜひとも新しい加茂病院からの往診をお願い申し上げます。

## 7 病児保育園（病児・病後児保育施設）の設置について

- (1) 平成27年1月14日佐藤田上町長と私加茂市長とで、この要望をさせていただきました。

- (2) 病児保育園（病児・病後児保育施設）は、現在その必要性が強く叫ばれているものであります。現在は、女性の社会進出が一般化し、いわゆる夫婦共働きが圧倒的に多くなっております。この場合、子供が病気になりますと、夫婦のいずれか、通常の傾向としては母親が仕事を休まざるをえなくなります。しかし、仕事を休むことには、大きな困難が伴っておりまして、病気の子どもを預かる病児保育園（病児・病後児保育施設）の設置が今や必要不可欠となっております。

- (3) しかし、病児保育園（病児・病後児保育施設）には、看護師だけでなく、医師の存在が不可欠なため、加茂市でも田上町でも、これを設けることが不可能な実情にあります。

- (4) 一方、県立加茂病院と同規模（179床）の福井県鯖江市にある2市3町の組合立の公立丹南病院は、最近建て替えられた病院ですが（平成24年5月新病院で診療開始）、そこには病児・病後児保育施設が設置され、鯖江市から委託を受けております。（他市町村の乳幼児が利用した場合には、鯖江市が費用を立て替えております。）

- (5) 加茂市と田上町に病児保育園（病児・病後児保育施設）を設けるためには、新しい加茂病院に設置していただく以外に方法はありません。
- (6) 幸いに、基本設計では、病院の職員のための保育所が設けられることになっておりますので、加茂市民と田上町民のための病児保育園（病児・病後児保育施設）をも設けていただきたく、強く御要望申し上げます。
- (7) この件について、早急に協議に入らせていただければ、有難く存じます。

## 8 PET-CTの設置について

- (1) 医学の進歩は、めざましいものがあり、多くの病気が治る時代となりました。とりわけ「がん」は、早期発見が最も重要であります。「がん」の早期発見において、最近大きな威力を発揮しているのがPET-CTであります。これは御承知のように、受診者を全身このPET-CTにかけますと、「がん」のある部位あるいは「がん」が疑われる部位が光るというものであります。
- (2) このPET-CTは、今や病院において、なくてはならない医療機器となっているものであります。いわんや新しい病院においては、優先順位第一で備えつけなければならない医療機器であります。ぜひとも設置をよろしくお願い申し上げます。

## 9 夜間冷暖房を止めないことへのお願い

- (1) 現在の加茂病院には、高橋芳右院長先生をはじめとして名医がそ

ろっておられ、看護師さん、技師さん、事務局の方々も、それぞれ練達しておられます。そして、患者さんに優しくして下さい、患者の方々の評判も極めて高いものがあります。

- (2) しかし、1つだけ問題なのが、夜になると入院室の冷暖房を止めてしまわれることでもあります。これは病人の病状を悪化させることにもなり、付き添わなければならない状況にある人達にとっても、苦しいことでもあります。
- (3) 新しい加茂病院は、最も近代的な立派な病院になります。新しい加茂病院においては、夜も絶対に冷暖房を停止されないよう強くお願い申し上げます。
- (4) そのため、冷暖房は1日中昼夜ともに作動させていただき、病院中の各室で「入」と「切」ができるようにしていただきたく、何とぞよろしくお願い申し上げます。

## 10 透析について

- (1) 透析については、加茂市において、さくらクリニックで大勢の患者に行っておられ、心から感謝しております。
- (2) しかし、新しい加茂病院は、立派で重要な病院でありますので、加茂病院では透析ができないというわけには行かなくなっていると思います。
- (3) さくらクリニックとは調和を保ちつつ、加茂病院でも透析ができる態勢にさせていただくようお願い申し上げます。



平成27年 1月14日

新潟県知事 泉 田 裕 彦 様

田上町長 佐 藤 邦 義

加茂市長 小 池 清 彦

## 新潟県立加茂病院建設に伴う病児・病後児保育 施設設置の要望書

日頃、田上町・加茂市の福祉事業推進につきましては、  
格別な御高配を賜り深く感謝申し上げます。

新潟県立加茂病院の整備につきましては、地域密着型の  
病院モデルを目指し、県央基幹病院との連携を図る後方病  
院の役割を担うことを目的に、このたび基本設計を作成中  
と承知しております。

一方、乳幼児を持つ子育て中の保護者からは、子どもが  
急な発熱でも仕事を休むことができないなど、病気の子供

や体調不良となった児童の受け入れ先について、子どもを預けたくてもこの地域にそういった施設が無く、安心して子供を育てられないなどという声が以前から多くあります。

新潟県では保育施設の充実や病児・病後児保育の必要性を感じておられることと存じますが、田上町・加茂市では医療機関との連携を行っている施設を現在つくることが不可能なことから、新潟県立加茂病院の建設に併せて、地域と連携する病児・病後児保育施設の設置を強く願いますものであります。

なお、県立加茂病院と同規模（179床）の福井県鯖江市にある公立丹南病院は、最近建て替えられた病院（平成24年5月新病院で診療開始）ですが、そこには、病児・病後児保育施設が設置され、鯖江市から委託を受けております。（他市町村の乳幼児が利用した場合は、鯖江市が費用を立て替えております。）

田上町・加茂市におけるこれらの事情をご賢察の上、新潟県立加茂病院の一日も早い完成を願いながら、特段の御高配を賜りますよう御要望申し上げます。

# 加茂病院改築事業 基本設計の概要



平成27年1月

新潟県病院局

# 1 病院の基本理念及び基本方針

## 【基本理念】

良質な医療を提供し、地域の人々の健康維持・増進に貢献します。

## 【基本方針】

- 患者様の権利を尊重し、患者様中心の医療を実践します。
- 医療の質の向上に努め、安全な医療を提供します。
- 適切な高齢者医療を行います。
- 疾病の予防と啓発活動に取り組みます。
- 地域社会及び他の医療機関との密接な連携に努めます。

現病院の外観





## 2 新病院整備の基本的な考え方

### ● 地域密着型病院のモデル

県央医療圏における完結型医療体制の中で、高齢化が進む加茂・田上地域に密着した医療を提供し、一般急性期から亜急性期、終末期、長期療養までの病床を備えた、地域医療の最前線を担う二次医療機関として、「地域密着型病院」のモデルを目指します。

### ● 県央基幹病院との連携及び役割分担

県央医療圏の高度・専門的な医療を担う県央基幹病院から退院した回復期の患者の受入等を担う後方病院として、基幹病院との連携・役割分担のもと、一般急性期から回復期、慢性期までの身近な医療を提供できる診療機能を備えた病院を目指します。



完成イメージ

### 3 新病院 基本設計のコンセプト

#### ①信頼される病院

- **地域特性、地域要望を踏まえた診療機能の充実、整備**  
生活習慣病、認知症、運動器疾患等高齢者に多い疾病に対する診療機能を確認保  
緩和ケア病棟、緩和医療におけるセンタ－的機能を整備
- **プライマリー保護への配慮**  
一般病棟内に分べん室、沐浴室等産科諸室を整備、近接する位置には個室を配置  
各病棟に相談室を配置、現病院の2.5倍の個室を整備

#### ②患者等にやさしい病院

- **見守りケア病棟**  
スタッフステーションからの観察性を高め、看護必要度の高い患者のケア  
に最適な「見守りケア病棟」を実現
- **スタッフアメニティの充実**  
院内保育所の設置等、働きやすい環境を整備
- **利用状況を踏まえた駐車場の整備**  
現病院を上回る220台の駐車場を整備  
送迎車、バス等の乗り入れに配慮した配置計画を検討中



#### ③地域に開かれた病院

- **地域交流の拠点となる「多目的ホール」の整備**  
地域の医療関係者等の研修・医療情報等発信の拠点となる「多目的ホール」を整備  
夜間、休日等の利用を想定し、患者・スタッフ動線と交差しない位置に独立して配置



## 4 新病院の建築概要

- 敷地面積 : 約15,000㎡
- 建築面積 : 約 4,400㎡
- 延床面積 : 約13,000㎡

階	6階	5階	4階	3階	2階	1階
設備	多目的 ラウンジ	管理諸室、医局 経営課、会議	機械	設備		
療養病棟		緩和ケア病棟 30床				
50床		一般病棟(内科系) 50床				
一般病棟(外科系) 50床						
リハビリ						
手術						
外来・救急						
検査						
多目的ホール 健康増進センター						
中材						
SPD						
医事 患者支援						
放射線						
院内保育						
更衣・休憩						
給食						
電気						
薬剤						
ゴミ・リネン						
サービス ヤード						



# 5 主要機能新旧比較表

		現在	新病院
医療機能	○15科 内科、総合診療科、緩和ケア科、神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、リハビリテーション科	→	○15科 内科、総合診療科、緩和ケア科、神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、リハビリテーション科
	緩和医療	○一般病棟で運用	○緩和ケア病棟を設置 ○緩和医療のセンター的機能 専門研修の受入、ボランティアの育成等
リハビリテーション	○急性期、亜急性期のリハビリ	↗	○基幹病院の後方機能 急性期、亜急性期のリハビリ ○外来リハビリの実施
	在宅医療	○専門医療の在宅医療	○高齢者に多い疾病のリハビリを実施 ○在宅医療を担当する診療所の後方支援 在宅療養患者の急性増悪時の入院等 ○専門医療の在宅支援
病床数	○180床 (一般:150床、療養:30床)	→	○180床 (一般:100床、療養:50床、○緩和ケア:30床)
救急機能	○救急告示・トリアージ機能 (二次救急・病院群輪番制)	→	○救急告示・トリアージ機能 (二次救急・病院群輪番制)
医療連携	○病診連携 紹介・逆紹介患者診療 ○診療所からの検査依頼対応 (検査ステーション機能)	↗	○病診連携の強化 ○診療所からの検査依頼対応 (検査ステーション機能) ○診療所医師との研修会の実施
	建物規模・仕様	○延床面積:約10,000㎡	○延床面積:約13,000㎡
構造	○耐震構造	↗	○耐震構造(新耐震基準適合)
	○鉄筋コンクリート造	↗	○鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
駐車場	○205台(職員用含む)	↗	○220台(職員用含む)
	○1床室:18室	↗	○1床室:46室 ※多床室についても、十分なベッド間隔を確保できる広さを確保し、患者のプライバシーに配慮した病室を計画しています。
病室			

# 6 新病院 建て替えのプロセス(予定)

- 工事区域
- 建設工事
- 解体工事

H27.6～ 附属建物解体・仮設(発電機等)工事



H28.1～ 新病院建設



H30.31 現病院解体



H31 外構工事

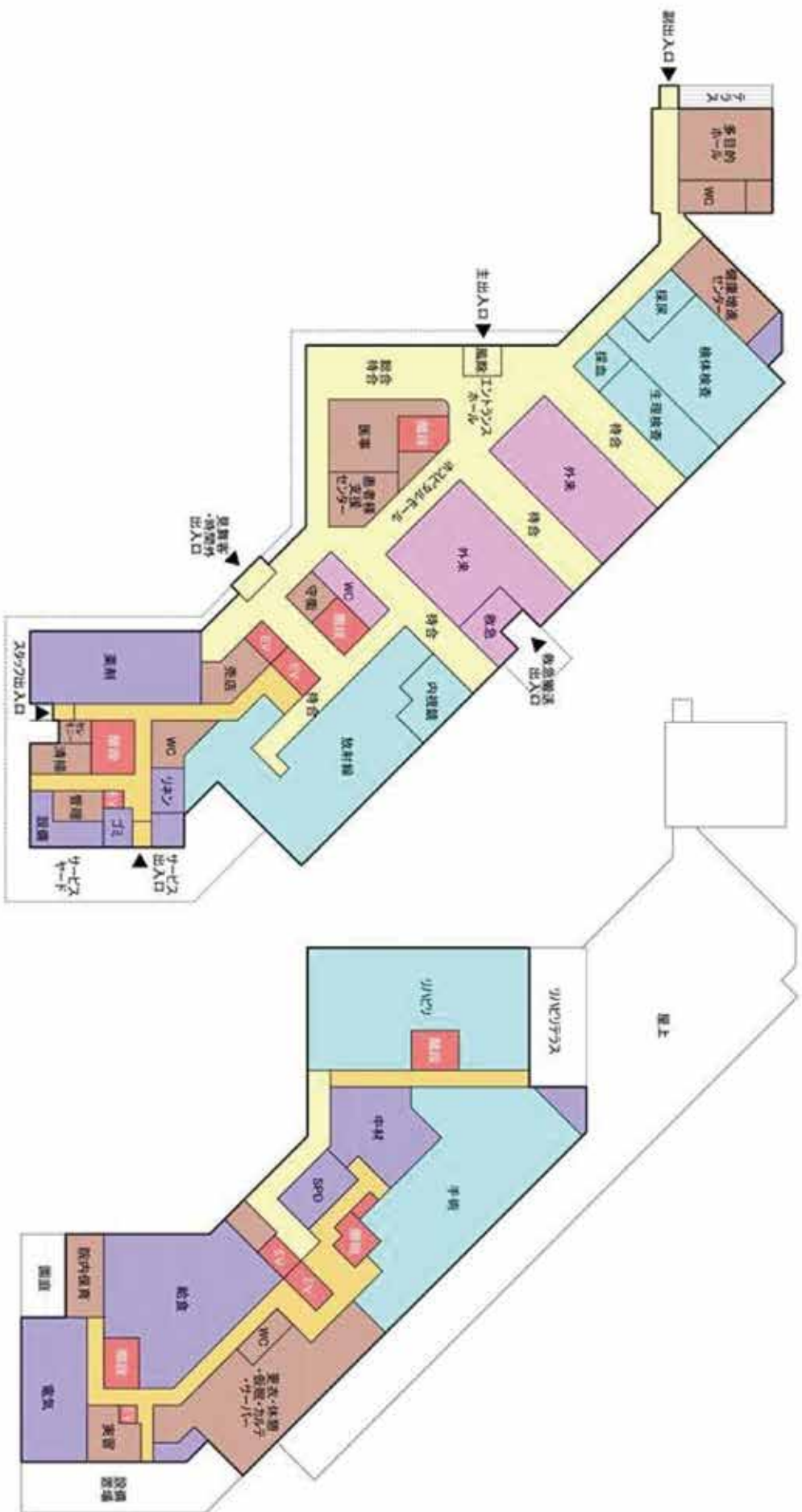




# 7 新病院 平面想定図(1階、2階)

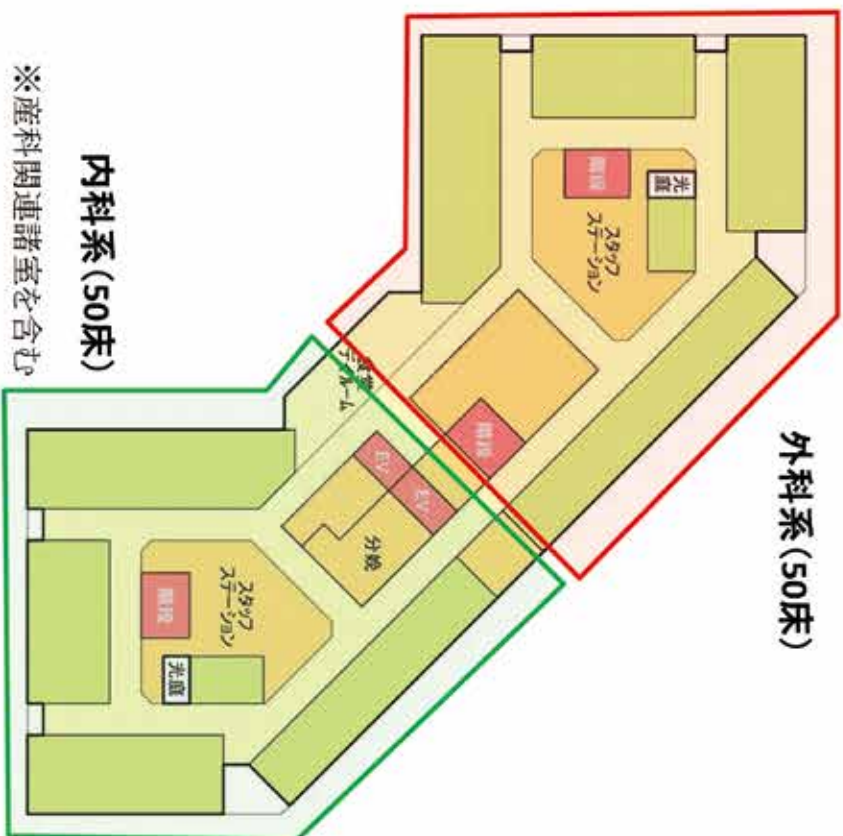
● 1階(外来、放射線、検査、  
薬剤、多目的ホール等)

● 2階(リハビリ、手術、給食等)



# 7 新病院 平面想定図(3階、4階)

● 3階(一般病棟)

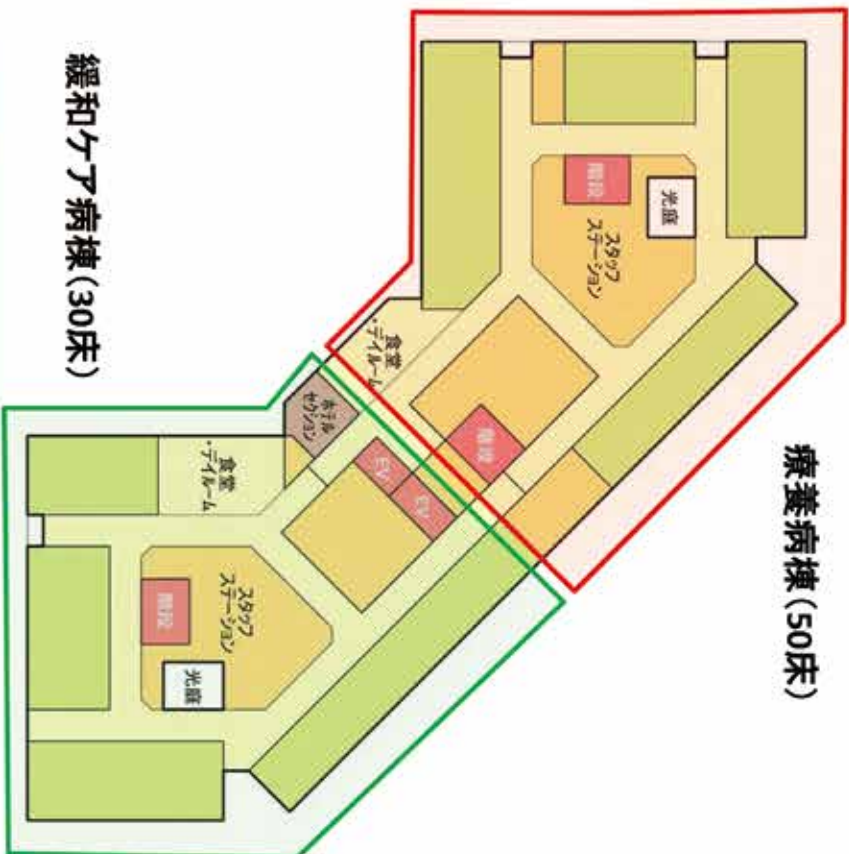


※産科関連諸室を含む

内科系(50床)

外科系(50床)

● 4階(療養病棟、緩和ケア病棟)



療養病棟(50床)

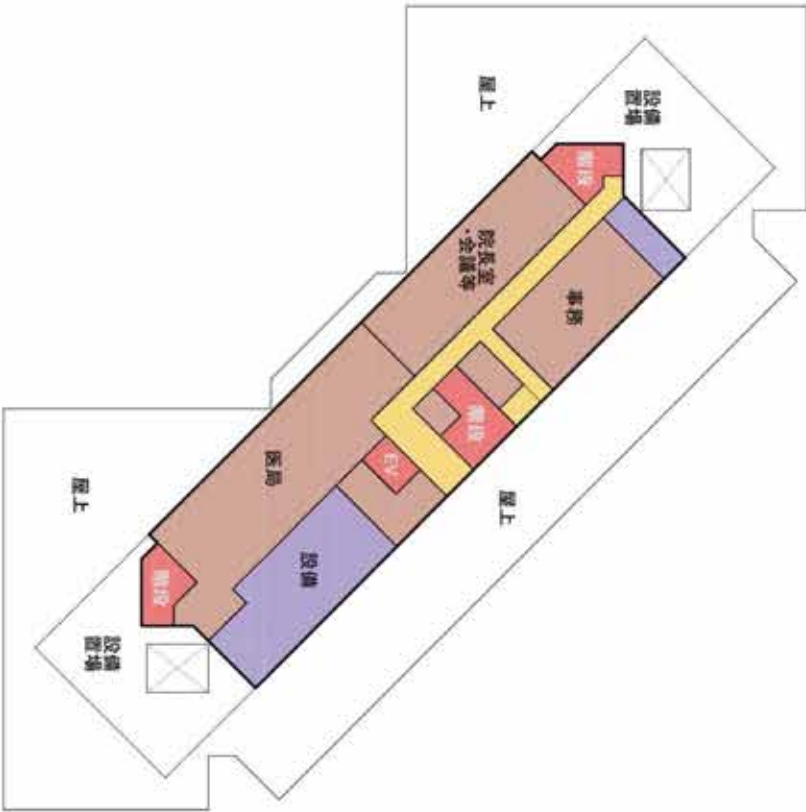
緩和ケア病棟(30床)

病棟スタッフステーションイメージ

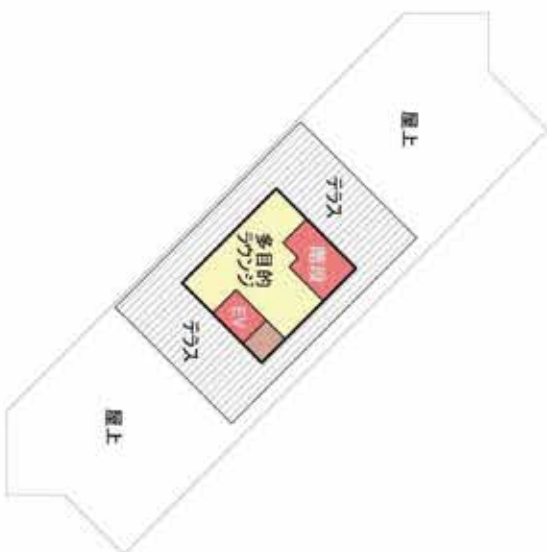


# 7 新病院 平面想定図(5階、6階)

● 5階(管理諸室、医局、事務室等)



● 6階(多目的ラウンジ)





## 第36回

### 加茂市元旦マラソン結果

今年の元旦マラソンは、コースのどこどころに前日までの雪が残っていました。スタート地点やコースの沿道からは、たくさんの方の応援が送られ、出場した百三名全員が完走しました。結果は次のとおりです。

#### 【2.8 km コース】

▼小学3・4年男子の部①関川祥太12分58秒最優秀選手賞（加茂Jr



- 陸上・石川小) ②皆川武蔵 (石川小) ③金塚大和 (石川小) ▼小学3・4年女子の部①坂井椿13分43秒最優秀選手賞 (加茂西小) ②横井美沙希 (加茂Jr陸上・石川小) ③東樹ふゆ (Sunrock) ▼小学5・6年男子の部①高橋慶11分54秒 (加茂Jr陸上・石川小) ②中野悠平 (七谷小) ③坂井風 (加茂西小) ▼小学5・6年女子の部①加藤理万12分52秒 (燕市吉田北小) ②西潟玲音 (加茂Jr陸上・七谷小) ③東樹ゆき (Sunrock) ▼中学男子の部①野村晃生10分57秒 (加茂Jr陸上・葵中) ②飯岡永悠 (加茂Jr陸上・若宮中) ③高橋秀 (新潟市南区) ▼中学女子の部①石平歩那11分44秒 (加茂Jr陸上・加茂中) ②高田優心 (新大付属長岡中) ③皆川いろは ▼一般・高校女子の部①波塚美奈子13分8秒 ②皆川敬子 ③田澤由美子 ▼一般男子の部①小柳健一10分42秒 (新潟中央短大) ②梅田誠 (ユエランナース) ③番場浩 (加茂スポ少ドッジボール)
- 【4.9 km コース】
- ▼一般・高校男子の部①鶴巻史暉16分26秒 (開志国際高) ②船久保徹 (FRC) ③板垣陶冶 (開志国際高)

### 新春市民囲碁大会結果

期日 一月十一日

会場 上町コミュニティセンター

ター

参加者 三十三人

- 【Aクラス (四段以上)】①梅田朋介 (栄町) ②田中悌三 (千刈二) ③酒井資栄 (八幡一)

- 【Bクラス (二〜三段)】①松原茂樹 (駅前) ②西條文和 (学校町) ③小林幸嘉 (後須田第二)

- 【Cクラス (級位〜初段)】①西潟善郎・新潟日報杯 (大郷町一) ②志田宏志 (赤谷) ③岡田能隆 (新栄町)



### 新春市民将棋大会

期日 一月十八日

会場 上町コミュニティセンター

ター

参加者 三十七人

- 【Aクラス (初段以上)】①高橋直樹・新潟日報杯 (寿町) ②遠藤孝 (芝野) ③桑原茂 (幸町一)

- 【Bクラス (一〜十級)】①山口勝秋 (穀町) ②坂上佐久男 (田上町) ③吉田静雄 (若宮町)

- 【Cクラス (十級以下)】①藤田健広 (下興屋向) ②星野勝夫 (番田) ③宮崎正充 (青海町二)

- 【子どもの部】①佐野正成 (須田小) ②山口恭平 (加茂小) ③加藤秀真 (加茂小)



# 加茂西小学校の校歌

加茂西小学校の校歌は、同校が加茂尋常高等小学校西舎から加茂西尋常小学校として分離独立した翌年の昭和十四年（一九三九）一月二十日付で文部省の認可を受けている（「官報」昭和14・1・28）。申請から認可までの期間を考慮すると、独立校になってすぐに校歌制定作業にとりかかり、昭和十三年中に完成したと思われる。一刻も早く校歌を持ちたいとの思いが伝わる。現在も歌われている市内の小学校の校歌では、須田小学校に次いで二番目に古い。

で、作曲者は加茂朝学校（現加茂暁星高校）講師の鈴木啓太郎である。小松は佐渡出身で、加茂高等女学校教頭から、戦後加茂中学校初代校長に転じ、その後加茂町の公民館長・図書館長を経て郷里に帰り、両津市教育委員長や佐渡高校講師を歴任した。加茂中学校在任時に「加茂中行進曲」の作詞もした。

鈴木は長岡女子師範学校（現新潟大学）講師を経て、昭和十二年から加茂朝学校の音楽講師となり、戦後まで在任した。昭和十三年には加茂朝学校の校歌（作詞西村大串）にも曲をつけている。

制定当初は、最後に「加茂西校、

## 加茂の風土記

官報 第三六八八號 昭和十四年一月二十八日 土曜日

○ 學 事

◎ 歌詞及樂譜採用認可 小学校唱用歌詞及樂譜採用方左ノ通り認可セリ（文部省）

申請者	歌 詞 及 樂 譜 採 用 小 学 校	認可年月日
東京府知事	御殿山尋常小学校校歌 櫻木佳野筆之介作歌	昭和十四年一月二十日
同	西小岩尋常小学校校歌 北條理作作歌	同
新潟縣知事	加茂西尋常小学校校歌 鈴木啓太郎作曲	同
同	南蒲原郡加茂西尋常小学校校歌 同	同

採 用 小 学 校

中陳由次郎	萬 直三郎	伊藤 武夫	大 阪 浮田 高太	覺道三郎	覺道三郎
須貝 要一	菊地末太郎	水料 吉郎	山本 隆造	櫻木佳一郎	服部重三郎
廣瀬六三郎	松本徳太郎	後藤 佐吉	西村 福治	松塚 彦一	眞崎 金六
平井 武茂	三木 政吉		赤尾 節子		
京都 細中 乙松	大塚だん子	中村 絹子	神奈川 アケチエ		

昭和十四年一月二十八日付の官報より

### 加茂西尋常小学校校歌

- 一 みくに開けし昔より  
流れてつきぬ濃川  
その川水にみがきつつ  
いよいよ清しわがこころ
- 二 あめつちのむたとこしえに  
ゆるがぬしるし弥彦山  
その山のごと築きつつ  
いよいよ高しわが操
- 三 たりほの稲は田にあふれ  
畑もの木のみ野らにみつ  
その田に野らにきたえつつ  
いよいよ強しわが体

（加茂西校 加茂西校うまし子我等）  
注（一）は現在歌われていない

加茂西校美（うま）し子我等（われら）の一節があり、昭和三十年代まで歌われていたというが、現在は歌われていない。この部分の楽譜も学校には伝わっていないので、市史編さん室では卒業生の協力を得て採譜し、資料として残している。

（長谷川昭一）



### 人口のうごき

1月1日現在  
世帯 10,310 (+ 4)  
人口 29,216 (-35)  
男 14,126 (- 8)  
女 15,090 (-27)  
( )内は前月比  
(12月異動分)  
出生 12 (男 7 女 5)  
死亡 42 (男16 女26)  
転出 35 転入 30